

参考文献リスト(2-7 気候変動による湿地環境への影響調査(新潟市))

No.	著者(公表年)、文献名、学術誌名、巻(号)、ページ	概要	URL
1	信越測量設計 昭和63年12月「佐潟植生モニタリング調査」 昭和63年12月	昭和62年度の「赤塚坂藤地区砂丘畑整備計画環境評価調査報告書」の結果を踏まえ、さらに工事の進行に伴う影響の有無を確認するために、水生植物を中心に現況を把握し、固定調査区の設定など、継続調査のための基礎資料を作成する目的で実施された。報告書では、佐潟における植生の変化の兆候、大型高茎草本(ヨシなど)の繁茂、富栄養化、などが指摘され始める。	
2	財団法人国立公園協会、平成5年12月「佐潟公園整備に関する自然環境影響評価」	佐潟周辺を都市計画公園として整備するにあたり、環境影響評価調査を行い、自然環境等の現況を把握し、事業の実施に伴う自然環境への影響を予測・評価し、必要に応じて保全のための対策を検討することを目的とした報告書。現況については、植生遷移の影響、水質の富栄養化の進行への警告が記述されている。	
3	新潟市環境部、株式会社グリーンシグマ、平成8年8月「佐潟周辺自然環境基礎調査業務」	佐潟及び周辺区域の保全整備に資することを目的に、環境の現況把握と今後の検討課題について取りまとめたもの。湖沼環境の変化と水生植物の衰退、オニバスの消長、その他希少種の消長についての考察がされている。	
4	新潟市、株式会社グリーンシグマ、平成10年3月「佐潟周辺植生モニタリング調査業務」	佐潟及び周辺区域の保全整備に資することを目的に、モニタリング調査を実施。水生植物の種数の減少、ヨシ、マコモ、ショウブなどの群落の拡大が指摘され、その原因について、水質の富栄養化、水位管理の変化、人為的干渉の消失が記されている。	
5	新潟市、株式会社グリーンシグマ、平成12年3月「佐潟周辺植生モニタリング調査業務」	佐潟及び周辺区域の保全整備に資することを目的に、モニタリング調査を実施。水生植物の種数の減少、ヨシ、マコモ、ショウブなどの群落の拡大が指摘され、その原因について、水質の富栄養化、水位管理の変化、人為的干渉の消失が記されている。	
6	新潟市、株式会社グリーンシグマ、平成14年3月「佐潟周辺植生モニタリング調査業務」	継続モニタリング調査。オニバスと水位の関係を指摘。	
7	新潟市、株式会社グリーンシグマ、平成16年3月「佐潟周辺植生モニタリング調査業務」	継続モニタリング調査。ハスは上佐潟で拡大傾向、下佐潟で縮小傾向であるが、分布域の移動のメカニズムは不明。低温がオニバス等の水生植物の生育に影響していることが示唆されている。ハスへの影響は明確でない。	
8	株式会社グリーンシグマ、平成18年3月「佐潟周辺植生モニタリング調査業務」	継続モニタリング調査。水質は悪化し、アオコが発生。そのため沈水植物はほぼ絶滅。	
9	株式会社グリーンシグマ、平成20年3月「佐潟周辺植生モニタリング調査業務(佐潟・御手洗潟)」	継続モニタリング調査。水質は悪化し、アオコが発生。そのため沈水植物はほぼ絶滅。	
10	株式会社サンワコン、平成24年3月「環政第2号 佐潟植生モニタリング調査(佐潟・御手洗潟)業務委託」	継続モニタリング調査。外来種の駆除、人為的に手を加えることの必要性、沈水植物相の再生のための水質改善の必要性等について指摘されている。	
11	株式会社グリーンシグマ、平成29年3月「環政第4号 佐潟周辺植生モニタリング調査業務(佐潟・御手洗潟)」	継続モニタリング調査。外来種の駆除、人為的に手を加えることの必要性、沈水植物相の再生のための水質改善の必要性等について指摘されている。	
12	新潟市、「第4期 佐潟周辺自然環境保全計画」2019年4月	ラムサール条約に登録された佐潟の自然環境の現状把握、目標の設定、具体的な取り組みなどの保全計画の記載。「基本的な方針について」、「佐潟のハスの現状について」、「佐潟の具体的な取り組み」などを参照。	
13	新潟市潟環境研究所 編、2018年11月、『みんなの潟学—越後平野における新たな地域学』	平成26年度の発足から平成28年度までの3年間の活動内容をとりまとめた報告。潟の概要、変遷、歴史、暮らしと文化について記述。未来に向けた提言も記述されている。	